

2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	加藤周一現代思想研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

2019年度は本研究センターの研究主題である加藤周一の生誕百年にあたり、その記念国際シンポジウムを、東京・日仏会館（9月21、22日）と立命館大学（同23日）とで共催した。日仏会館の統一主題は「加藤周一の知的遺産と世界の中の日本」であり、立命館大学の統一主題は「東アジアにおける加藤周一」である。立命館大学側のシンポジウムは4つの講演と1つのパネルディスカッションで行われた。講演は、奈良勝司広島大学准教授の「近代日本の対外観と西洋理解」、孫歌中国社会科学院教授の「対談における加藤周一」、作家・池澤夏樹氏の「『日本文学史序説』を読む」、李成市早稲田大学教授の「韓国から見た雑種文化論——一つの例として」という4講演を第I部として構成した。あいだに加藤周一の養女であるソーニャ・カトーの「挨拶」を挟んで、第II部は「雑種文化論と韓国・中国・日本」と題したパネルディスカッションを催した。パネラーとして樋口陽一・学士院会員兼加藤周一文庫運営委員会顧問、林慶澤・韓国全北大学教授、王中忱・中国清華大学教授が参加し、小関素明・立命館大学教授が司会を務めた。立命館大学のシンポジウムに参加した人数はのべで500人を超える盛況であった。このシンポジウムの講演録集が2020年9月中旬に水声社から刊行される。なお、上記国際シンポジウムは、立命館大学図書館、同人文科学研究所以からの物心両面での支援を受けた。生誕百年記念国際シンポジウムを9月に催した関係で、毎年秋に行っている加藤周一記念講演会を5月に前倒しし、フランス文学者の海老坂武氏を招いて、「加藤周一における日本文化への視線——その変貌と意味について」という講演が5月25日に行われた。また同年11月には京都工芸繊維大学にて「人間主義的思想家加藤周一を偲ぶ」という講演会が開かれ、鷺巣力「加藤周一文庫と「加藤周一の方法」」と題した報告を行なった。

手稿ノートの精査とそのデジタルアーカイブ構築は、年度末までに「日本文学史 中世」「日本文学史 江戸」「タシュケント1957」「京都一奈良1958」「晩香波日記」「中華人民共和国1971」の6冊のノートを公開した。「タシュケント1957」は同年にアジアアフリカ作家会議の準備委員としてタシュケントに赴いたときのノートであり、『ウズベク・クロアチア・ケララ紀行』（岩波書店、1959）の原資料の一部となったものである。「中華人民共和国1971」は初めて中国を訪れたときのノートであり、『中国往還』（中央公論社、1972）のもとになった資料である。これによってデジタルアーカイブ化されたノートは22冊になり、この作業は次年度以降も引き継がれていく。デジタルアーカイブへのアクセス数は数万に達する月もあり、年々周知度は上がっている。

2017年末に東京女子大学の丸山眞男研究センターとの研究提携に基づく共同企画展示は二回目となり、今回は「くおしゃべりから始まる民主主義」と題した展示を両大学図書館で同時開催した。なお立命館大学では、衣笠、大阪いばらき、びわこくさつの3キャンパスを巡回する展示となった。これも次年度に引き継がれてゆく。

刊行物としては、2019年5月には『加藤周一 青春ノート 1937—1942』（編集＝鷺巣力、半田侑子、人文書院）を刊行した。すでにデジタルアーカイブとして公開されている8冊の「青春ノート」の抄録であるが、デジタルで読むのになじまない読者に向けてノートを公開することに意味があると考えた。また同年9月には『加藤周一 称える言葉＊悼むことば』（編集＝鷺巣力、西田書店）と題して、推薦文と追悼文を集めた文集を刊行した。推薦文も追悼文も短文で書かれ、加藤は短文の名手である。その文章の巧みさを学ぶことができる書物となった。さらには『加藤周一 日記抄』（編集＝鷺巣力、半田侑子、平凡社、2021年初夏刊行予定）の刊行を準備している。

加藤周一文庫の周知と若手研究者の育成を目的に、加えて「精読」という読み方を実践するために、図書館との共同作業として、加藤周一文庫公開講読会を2019年9月から始めた。普段、加藤文庫デジタルアーカイブ化作業に携わる若手研究者が、加藤周一の書いた文をじっくりと精読することを基本として、『羊の歌』（岩波新書、1968）を一章ずつ精読し、それを報告、さらに参加者と討論するという講読会をもっている。回を追うごとに参加者が増えており、かつ議論が活発になってきている。この講読会も今後も継続して行うべきものと考えている。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	鷺巣 力	衣笠総合研究機構	客員教授	
運営委員	加國 尚志	文学部	教授	
	岡本 雅史	文学部	教授	
	西岡 亜紀	文学部	准教授	
	北村 順生	映像学部	准教授	
	小関 素明	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中川 成美	文学部	特任教授	
	根津 朝彦	産業社会学部	准教授	
	福間 良明	産業社会学部	教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	半田 侑子	衣笠総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	西澤 忠志	先端総合学術研究科	一貫制博士課程3回生
		福井 優	文学部	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	猪原 透	文学部	授業担当講師	
	住田 翔子	産業社会学部	非常勤講師	
客員協力研究員	樋口 陽一	東京大学	名誉教授	
	三浦 信孝	財団法人日仏会館	副理事長	
	ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学・工芸科学研究科	教授	
	彭 佳紅	帝塚山学院大学・人間科学部	教授	
	桜井 均	NHK放送文化研究所	特任研究員	
	石塚 純一	札幌大学	名誉教授	
	龍澤 武	東アジア出版人会議	理事	

	宮村 治雄	成蹊大学アジア太平洋研究センター	客員研究員
	川口 雄一	東京女子大学 (丸山眞男記念比較思想研究センター)	職員
	小島 潔	岩波書店	常務取締役
	片岡 大右	慶應義塾大学商学部	非常勤講師
	落合 勝人	株式会社集英社	新書編集部編集長
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	野口 雅弘	成蹊大学	教授
	富山 仁貴	関西学院大学文学研究科	学振特別研究員 DC
研究所・センター構成員 計 28 名 (うち学内の若手研究者 計 3 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	鷲巣力・半田侑 (編)	加藤周一 青春ノート 1937-1942	単著	2019年5月	人文書院	加藤周一 (著)	
2	鷲巣力 (編)	称えることば悼むことば - 加藤周一推薦文・追悼文集	単著	2019年9月	西田書店	加藤周一 (著)	
3	桜井均	メディア、お前は戦っているのか (メディア批評 2008~2018)	共著	2019年4月	岩波書店	神保太郎名で桂敬一、臺宏士、山田厚史	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	加國尚志	野生の知覚、なまの知覚——後期メルロ＝ポンティの「研究ノート」における知覚経験の位相——	単著	2020年2月	立命館文学 665号		PP.890-900	無
2	西岡亜紀	モスラが来る！——「発光妖精とモスラ」における文学の運命の隠喩	単著	2019年4月	中村真一郎手帖、14巻		PP.21-36	有
3	西岡亜紀	京に静かに響く音——道成寺の鐘、南蛮寺の鐘にまつわる交流と再生——	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究科紀要、122巻		PP.263-278	有
4	西岡亜紀	立命館大学加藤周一文庫準貴重書庫所蔵・福永武彦関連本リスト	単著	2020年	年報・福永武彦の世界、5巻		PP.80-104	無
5	岩津航・近藤圭一・戸塚学・飯島洋・西岡亜紀	座談会・福永武彦の過去・現在・未来	共著	2020年	年報・福永武彦の世界、5巻		PP.5-46	無
6	中川成美	「情動としての『こころ』——文学と身体の結節点」	単著	2019年12月	『漱石の居場所——日本文学と世界文学の交差』、岩波書店	安倍オースタッド玲子、アラン・タンズマン、キース・ヴィンセント	PP.42-67	無

7	猪原透	米田庄太郎の社会哲学—社会学の方法と理想主義—	単著	2019年9月	日本思想史学会, 日本思想史学, 51号	PP.136-151	有
8	ジュリー・ブロック	オーギュスタン・ベルクにおける「通感性」—文学と翻訳研究への応用—	単著	2019年12月	京都工芸繊維大学学術報告書第12巻	PP.13-18	有
9	桜井均	「調査ドキュメンタリー」を調査する	単著	2019年9月	放送文化研究所「放送研究と調査」	PP.16-34	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	西岡亜紀	紙芝居の100年	2019年9月	Swiss National Museum open seminar (招待講演) (国際学会)	
2	西岡亜紀	アニメーションと教育—『アルプスの少女ハイジ』から世界名作劇場シリーズ、ジブリまで—	2019年8月	Heidi from Japan:Narratives, Anime, and Swiss Receptions (招待講演) (国際学会), チューリッヒ大学	
3	中川成美	贖罪は死者への悼みか—いとうせいこう『想像ラジオ』を起点に—	2019年12月	コンファレンス Lire la Litterature japonaise a la lumiere de l'apres 11 mars, パリ・フランス国立東洋言語文化学院	
4	福間良明	「特攻の町・知覧」の戦後史—「他者の記憶」の逆輸入と「無難さ」の政治学	2019年7月	同志社社会学研究学会 (2019/07/27)	
5	福間良明	The Arguments on War Experience in postwar Japan and "criticism of victim mentality"	2020年3月	Conference:Challenge of Reconciliation Studies (新型コロナウイルス感染拡大のために出席できなかったため、英文予稿のみ発表)	
6	猪原透	明治中期のナショナリズムと法学—牧野英一—の思想形成	2019年11月	日本思想史学会 2019年度大会、茨城大学	
7	猪原透	明治・大正期の社会科学における事実と規範—牧野英一の法理学を中心に—	2020年1月	大阪市立淀川区民センター	
8	ジュリー・ブロック	柿本人麻呂の歌を読むことから新しい歌を創ることへ—「ことあげ」を含む『万葉集』の二首の歌の分析と解釈	2019年3月	「日仏翻訳学研究」第4回研究会	
9	ジュリー・ブロック	加藤周一と「二重の光」—人間主義的思想に向けた比較研究の方法	2019年9月	加藤周一の知的遺産と世界の中の日本 [国際シンポジウム]	
10	ジュリー・ブロック	「詩の主体」の誕生とその生命感—『万葉集』の歌一首における修辞法とその作用をめぐって	2019年10月	萬葉学会全国大会	
11	ジュリー・ブロック	加藤周一における理性と精神性 死の意識から人間主義的思想へ	2019年11月	「人間主義的思想家」加藤周一を偲ぶ 生誕百周年を締めくくるために	
12	ジュリー・ブロック	日本文化における「今」と「ここ」—詩的、文学的な伝統に根差した現象学的思想	2019年12月	日本比較文学会 2019年度関西大会	
13	桜井均	植民地支配がもたらした暴力の連鎖: 朝鮮人B級戦犯、連合軍捕虜、そして蘭印系の人々	2020年2月	明治学院大学・国際平和研究所	内海愛子

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第4回加藤周一記念講演会 「加藤周一における日本文化への視線—その変貌と意味について—」	立命館大学	2019年5月	250名	立命館大学図書館
2	加藤周一生誕100年記念企画 「加藤周一を21世紀に引き継ぐために」	立命館大学	2019年9月	350名	公益財団法人日仏会館、人文科学研究所、立命館大学図書館
3	「人間主義的思想家」加藤周一を偲ぶ 生誕百周年を締めくくるために	京都工芸繊維大学	2019年12月	70名	

4	加藤周一生誕100年 関連映像を見る会	明治大学リバティ ーター	2019年5月	100名	映像ドキュメント.COM
5	「証言ドキュメント 辺野古」	明治大学	2019年9月	50名	映像ドキュメント.COM
6	「アジア・太平洋戦争」	梨の木舎	2020年2月	25名	映像ドキュメント.COM、大阪経済法科大学
7	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第1回>	立命館大学	2019年9月	30名	立命館大学図書館
8	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第2回>	立命館大学	2019年10月	30名	立命館大学図書館
9	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第3回>	立命館大学	2019年11月	30名	立命館大学図書館
10	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第4回>	立命館大学	2019年12月	30名	立命館大学図書館
11	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第5回>	立命館大学	2020年1月	30名	立命館大学図書館
12	加藤周一文庫公開講読会 『羊の歌』を読む<第6回>	立命館大学	2020年2月	30名	立命館大学図書館

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	中川成美	「震災後文学とジェンダー(対談) 関 口涼子・木村朗子」司会	衣笠キャンパス、『立命館言語文化研究』31巻2 号、PP.125～145	2019年10月
2	半田侑子	「加藤周一『青春ノート』から見る マチネ・ポエティック」	『感泣亭秋報 十四』、PP.34～45	2019年11月
3	猪原透	『象徴でなかった天皇』著・岩井忠 熊、広岩近広	『京都民報』2019年5月26日付(2885)5面	2019年5月26日
4	桜井均	「三・一独立宣言」が駆け抜けた一 〇〇年の孤独	『世界』2019年5月号メディア批評、PP.58～62	2019年4月
5	桜井均	「改元」、次は「改憲」か？	『世界』2019年7月号メディア批評、PP.64～68	2019年6月
6	桜井均	日米 似た者同士の「密談」	『世界』2019年9月号メディア批評	2019年8月
7	桜井均	テレビよ、怒りをこめて振り返れ！ そして、残された可能性を生きよ	『世界』2019年11月号メディア批評、PP.78～92	2019年10月
8	桜井均	安倍政権の本性を暴く追及一桜を見る 会	『世界』2020年1月号メディア批評、PP.70～74	2019年12月
9	桜井均	アベ様の耳はロバの耳、その口はシ ュレッター	『世界』2020年3月号メディア批評、PP.68～72	2020年2月
10	桜井均	ドキュメンタリー映画「主戦場」慰 安婦問題の本質に迫る “論争”通 じ見つめ直す原点	赤旗・日曜版	2019年5月5日
11	桜井均	映画「太陽がほしい」を見て	赤旗・日曜版	2019年8月4日
12	桜井均	「終戦番組を見て」	赤旗・日曜版	2019年9月8日
13	桜井均	「かんぽ生命」の不正暴いた「クロ 現」日本郵政が圧力、削除求め解 明遅らせる	赤旗・日曜版	2019年11月3日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	鷲巣力	加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
2	小関素明	終戦工作と戦後民主主義	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表

3	岡本雅史	社会的ヘテロフォニーとしての漫才対話 ～オープンコミュニケーションの超分節 性の解明	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
4	西岡亜紀	1940年代の若手文学者ネットワークと 「世界文学」概念：福永武彦を軸に	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
5	北村順生	映像アーカイブの教育活用によるサーキ ュレーション型文化創造に関する実践的 研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
6	福間良明	転換期としての「昭和50年代」と大衆メ ディア文化の変容	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
7	中川成美	クィア理論と日本文学ークィア・リーディ ングの可能性と実践	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	代表
8	ジュリー・ ブロック	象学的意味論を通して見た『万葉集』のレ トリックー恋の表現を中心にー	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1						

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1								